

内町小学校で河川環境学習を開催しました。

内町小学校4年生の児童を対象に、「川の水をきれいにするための取り組み」について学習した後、身近な川の水や生活排水の水質検査、透視度検査を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。

【実施概要】

日 時：平成24年5月18日（金）9：30～11：30

場 所：内町小学校 理科室

参加者：内町小学校 4年生 36名

徳島県 河川振興課 3名

徳島県 東部県土整備局（徳島庁舎） 2名

内 容：1 川の水をきれいにするための取り組み

2 水の汚れの原因（水質実験：透視度、CODパケットテスト）

感 想：助任川より水道水のほうがきれいなことが分かった。川に行ったときはゴミ拾いをし、ゴミを川に捨てないようにしたい。ジュースなどの飲み物を残さず飲むようにし、川や海に捨てないようにしたい。

【活動状況】

○「川の水をきれいにするための取り組み」

川の役割や川と人の関わりなど、川に関する基本的なことを学びました。また、川をきれいにするための取り組みやその大切さ、小学校から近い新町川や助任川の歴史などを学びました。



○「水の汚れの原因」水質実験（CODパケットテスト、透視度測定）

はじめに、水質実験に使う川の水として、身近にある助任川に行き、採水を行いました。

次に、持ち帰った助任川の水と水道水の透視度を測定しました。測定結果は、水道水に比べ、助任川の水は透視度が低いことがわかりました。COD（化学的酸素要求量）をパケットテストにより測定しました。助任川と水道水のCODを測定した結果、水道水に比べ、助任川のほうがCODが高いことがわかりました。また、川の汚れの原因となる生活排水として、身近にある食品（牛乳、ジュース、しょうゆ、スープ、米のとぎ汁、日本酒、焼き肉のたれの全7種類）のCODを測定しました。測定した結果、500mlの水に2～3滴程度混ぜたものでも10～100mg/lと高い値を示す結果になりました。このことから、残した食べ物を安易に流しや川に捨てることによって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。

